第35号　発行日　平成31年3月31日
広報局発行　編集：小牧・吉岡

鹿児島県言語聴覚士会ニュース

巻頭言　　学術局（新人教育担当理事）石原　禎人

平成天皇が昨年夏に退位を希望される意向を表明され、平成31年4月30日をもって「平成」という一つの時代が終わりを迎えることになりました。言語聴覚士法が公布（平成9年12月19日）されたのもこの「平成」という時代です。若手STの中には平成生まれの方たちも多く、ジェネレーションギャップを感じることもしばしばな今日この頃・・・。日本においても様々な変化のあった「平成」という時代が終わってしまうことは寂しくもありますが、「新しい時代の幕開け」という期待・希望を持って、明るく前向きに5月を迎えたいと思うところです。

ということでニュースペーパーもおそらく今回が平成最後！
そんな大切な回の巻頭言を務めさせていただくこととなり大変恐縮に感じております、学術局新人教育研修担当石原です。

さて、前述の通り言語聴覚士が国家資格化され、時代の変遷とともに様々な制度も変化する中で、私たち言語聴覚士の社会における役割の変化も感じずにはいられません。
団塊の世代の多くが75歳以上の高齢者となる2025年問題。皆様耳にされたことが当然あると思います。この問題に対して、国が進めている、高齢者が住み慣れた地域で活き活きと生活が続けられるように支援していく体制が「地域包括ケアシステム」です。最近、各種研修や学会においても、地域の中での言語聴覚士の果たす役割の重要性がテーマとされることが多くなっているように感じます。

鹿児島においても介護予防事業としての、お達者クラブでの講話、地域ケア会議への参加等、言語聴覚士の専門的な知識が多職種の方々や地域住民の方々に求められる機会が増加しています。私自身この介護予防事業に参加させていただく中で、高齢者の方々が住み慣れた地域でいつまでも元気で活き活きと生活していただくためにも、今、私たち言語聴覚士の知識や技術を発信することの重要性を強く感じています。

私自身、普段は急性期・回復期を中心とした病院で医療制度の中で臨床をしていますが、「地域包括ケアシステム」の中で、地域に目を向けることの重要性を実感するようになり、破綻してしまった機能改善のみならず、その先にあるその人らしい生活を考えることの重要性を再認識しています。
私たち言語聴覚士のフィールドは、医療・介護・福祉と多岐にわたります。皆様それぞれの職場で携わるフェーズは異なるかもしれませんが、言語聴覚士の職域を拡大していくためにも、是非！地域を意識し、地域に目を向けていただければと思います。

「平成」の次の時代。私たち言語聴覚士に求められる役割をそれぞれのスタンスで果たして地域貢献できたらいいですね！！

今号目次

巻頭言
1ページ
参加記
2-3ページ
新人紹介
4-5ページ
事務局通信
6-7ページ
地域局
社会局（公共事業・保険）
社会局（広報）
学術局（成人）
連絡
8-9ページ
学術局（小児）
学術局（新人）
連絡
10-11ページ
学術局
（生涯学習）
財務局
連絡
編集男誌
12-13ページ

第8回日本言語聴覚士協会 九州地区学術集会　IN SAGA ！！「輪～つながり～」

皆様こんにちは！！南風病院の樋渡（♂）です。2019年1月19日（土）、20日（日）、第8回日本言語聴覚士協会　九州地区学術集会　佐賀大会へ参加してきました。会場では、最新の知見を学びに全国から多くの会員が集まりました。大会参加の感想と、私も発表を行い、今後の取り組みついて報告したいと思います。

今回の本大会のテーマは「輪 ～つながり～」をテーマに講演・発表がありました。現在、国は団塊の世代が75歳になる2025年移行の問題に備え、地域共生社会の実現の為、地域包括ケアシステム構築を進めております。言語聴覚士の活躍が期待される場所も医療から生活の場（地域）へと広がりをみせております。鹿児島県においても市町への地域ケア会議助言者の派遣、行政、関係団体職種との連携が進んでいます。基調講演やシンポジウムでは「幅広い支援」、「地域共生社会」、「地域におけるSTの役割」などのキーワードが多く上げられ、今後、地域社会から求められる期待に応えるためには、各地域の状況を把握し、関係職種との顔の見える繋がりを増やしていくことが必要だと感じました。

口述発表について

南風病院では2017年9月より地域包括ケア病棟が開設され、医師・看護師・リハビリ職種が連携し、自宅退院に向けて支援を行なっています。今回、結核性髄膜脳炎により、運動障害性構音障害や記憶障害、注意障害構成障害を呈した症例を担当しました。これまで結核性髄膜脳炎により、発語や高次脳機能に関する報告は少なく、他職種と連携と支援を行ない自宅退院、職場復帰まで達成できた症例を本学会で報告しました。発表では極めて稀な症例という事もあり、会場からの質疑では言語症状の起因となった責任病巣（脳機能）の内容ではなく、本人に病識を理解する為にはどのような説明がされたのか、リハビリの実施回数等、改善に至ったプロセスについて、とても前向きな質問がされました。地域包括ケア病棟においても、適切な治療と手厚いリハビリは、短期間の機能回復を促進したと考えられます。本症例を通して貴重な経験をしました。

今後の取り組みについて

南風病院での言語聴覚療法の業務内容として摂食嚥下リハビリテーションが8割程度を占めておりますが、一昨年より神経内科医師が1名増え、脳梗塞などの脳血管疾患やパーキンソン病などのコミュニケーション障害に対してスピーチリハビリを実施する機会も増えました。厚生労働省のデータでは言語聴覚障害は600万人いるといわれております。今回の学会でも「地域」というキーワードが挙げられましたが、これからの地域の活力を担い、地域の子供から高齢者に必要・信頼される病院として、ST部門が取り組む課題として摂食嚥下障害のある患者様には安全に食事ができるように、適切な評価として嚥下造影検査を実施し、これまで言語・発達障害に対しても、症状理解の不足から指示箋がでる事は少なかったですが、円滑なコミュニケーションが図れるように、言語聴覚士が出来る事を医師・コメディカルへ発信したいと思います（指示箋の増加を目標）。

最後に

大会初日の夜は懇親会。最初の乾杯といえば、皆さんは好きなお酒やジュースで乾杯だと思われますが、佐賀県では「日本酒で乾杯を推進する条例」により、最初は、地酒で乾杯がお決まりとの事です。さすが、米どころ佐賀、お酒の産地です。日本酒の味は、濃厚旨口で肉だけではなく、魚料理にも合うとてもおいしいお酒でした。懇親会では各県士会の紹介と、各県士会会長に「ききカステラ」（原口会長は正解しましたがじゃんけん敗退、残念！！）、その後、ビンゴ大会がありました（10等までありましたが鹿児島会員当たったかな･･･）。佐賀大会の実行委員は参加者に飽きさせないプログラムで、会場は大盛況でした。

私の同期の冨山君（鹿児島医療技術専門学校）は同じ職場の松尾先生と一緒にランチで佐賀牛を堪能したそうです♪私も学生時代の旧友と再会し、お互い歳をとり、「子育て」と「健康」の話題が中心。とても充実した佐賀大会となりました。次回は長崎県で九州学術大会が開催されます。学術的な知識を得ることはもちろんですが、地元の料理、文化に触れる事も貴重な経験になります。長崎大会で（は）も、多くの県士会員が参加される事をとても楽しみにしております。

公益社団法人鹿児島共済会　南風病院
樋渡健太朗

新人紹介　今村総合病院　濵　佑太

私は平成30年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、現在、公益財団法人慈愛会今村総合病院で言語聴覚士として勤務しております。また、同時に鹿児島大学大学院保健学研究科に入学いたしました。

今村総合病院の病床数は、平成30年4月1日時点で一般病棟300床・回復期病床36床・精神科病床40床の計376床となっております。リハビリテーション科にはST14名・PT48名・OT18名・リハ助手5名が在籍しております。当院は総合病院ということもあり、リハビリテーション科・脳神経外科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・スポーツ整形外科など、様々な診療科が存在しております。リハビリテーションに関しては急性期から回復期まであり、私は回復期に入院されている患者様のリハビリテーションに携わらせていただいております。入職してからは、慣れない事やわからない事が多々ありましたが、職場の先輩方からご助言やご指導をいただきながら少しずつわかることが増えていき、現在は充実した日々を過ごしております。

臨床の現場では、患者様と接するにあたり、患者様の今後の生活に繋げていけるような、リハビリテーションを行えるよう心がけております。また、私はエビデンスに基づくリハビリテーションを行うためには、研究を実施し、リハビリテーション方法を確立していく事が重要であると考えております。私は、専門学校在学中に第18回日本言語聴覚学会でPACE訓練法に関する研究について学会発表をさせていただきました。研究に関する文献を調べていくうちに、認知リハビリテーション関して、リハビリテーション介入として十分な効果を明確に示すものは多くは無いことを知り、大学院へ進学し臨床研究を行うことを決意いたしました。臨床と進学と新しく2つの事を行うに当たって不安はありましたが、職場の上司や先輩方に、ご支援をいただき、現在は臨床と研究の双方で学ばせていただいております。

大学院の講義では、抄読した論文を元にディスカッションを行い、それぞれが意見をしあうことで様々な視点から物事を考え、そこで見つかった新たな疑問点について考えるといったことを行なっております。また、病態生理学や研究に用いる統計学など様々な内容を先生方にご教授いただいております。

言語聴覚士として働き始めてから、もうすぐ1年が経ちますが、様々な視点で物事を考えられるようになる事を目標に、多くの知識や経験を得られるよう日々精進していきたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新人紹介　　恒心会おぐら病院　山下　佑佳

私は平成30年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、現在は鹿屋市にある社会医療法人恒心会・恒心会おぐら病院で勤務しています。当院は、整形外科、外科、脳神経内科、リハビリテーション科（回復期）などの診療があり、その中でも私は、回復期病棟・外来患者様（成人、小児）のリハビリテーションに携わらせて頂いています。

入職当初は、学生時代に得た知識や経験だけでは、対応できないことが多く、自分の知識不足や未熟さに悩む日々でした。現在も訓練プログラムや臨床場面での疑問を解決できないことは多いですが、初期評価から訓練プログラムの立案、訓練、症例発表等、先輩方と検討し助言を頂きながら、言語聴覚士の役割を実感しています。

回復期病棟では、患者様と長期に渡り関わる機会が多く、自宅での生活を想定した訓練や対応が必要です。患者様だけでなく、その御家族との関わりも重要となってくるため、現状報告と対応を提案するように心がけています。また、担当患者様を持つことで、他職種との関わりも増え、チーム医療の大切さを日々感じています。様々な職種の視点から患者様の状態を把握することで、気づかされることも多いです。そのため、STの視点で他職種への情報共有も積極的に行っていきたいと思います。

現在、入職してから1年が経とうとしています。この1年間で出会った患者様から多くのことを学ばせて頂きました。まだ言語聴覚士としての経験は浅く、学ぶべき分野は幅広いですが、これからも臨床場面での疑問と向き合い、患者様の生活を広い視野でとらえられるように日々成長していきたいと思います。

事務局通信

県士会ニュース　事務局

動向（11月～3月理事会）
11月

11月2日　在宅歯科医療推進シンポジウム後援依頼あり→承認・承諾書送付

11月2日　第50回日本看護学会―慢性期看護―学術集会(2019/11/14-15))後援依頼あり　→承認・承諾書送付

11月8日　鹿児島市保健予防課保健予防係（POS協議会経由）より「地域におけるリハビリテーションの活用促進を目指した調査研究事業」アンケート依頼→田場副会長・社会局・地域局および事務局で取りまとめ送付

11月14日　「鹿児島県障害児等療育支援事業」巡回相談講師派遣依頼あり→菊野病院へ依頼

11月20日　日置市より日置市介護認定審査会委員の推薦依頼あり→川畑氏

11月29日　第8回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会佐賀大会代表者会議返信→原口会長・田場副会長

12月

12月6日　平成30年度鹿児島県医療推進協議会開催案内あり

12月13日　奄美大島地区介護保険一部事務組合より介護認定審査会委員及び障害支援区分市町村審査会委員の推薦依頼あり→安田氏

12月20日　平成30年度鹿児島県医療推進協議会出席→竹中氏・松尾氏

12月29日　鹿児島高次脳機能研究会後援依頼あり→承認

※選挙管理委員長を田中氏に依頼する。

1月

1月4日　　鹿児島高次脳機能研究会より一般演題募集および開催周知依頼あり→広報HP掲載
1月15日　鹿児島県社会福祉協議会より平成30年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会の開催および出席依頼あり→竹中氏
1月18日　第8回口腔機能管理推進協議会及び在宅歯科医療推進シンポジウム出席者名簿送付
1月18日　平成30年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会出席連絡票送付（竹中氏）
1月18日　鹿児島県くらし保健福祉部高齢者生き生き推進課より平成30年度介護予防従事者等専門研修会開催周知依頼あり→HPへ掲載
1月21日　奄美大島地区介護認定審査会委員および障害支援区分市町村審査会委員推薦書名簿送付
1月21日　意思疎通支援事業に係る講習会実績報告書およびそれに伴う請求書送付
1月21日　鹿児島県くらし保健福祉部健康増進課より脳卒中対策関係者研修会（奄美会場）開催周知依頼あり→HPへ掲載

2月

2月13日　鹿児島県リハビリテーション施設協議会よりリハビリテーションの普及・啓発に係る研修会開催費用の助成について（ご案内）あり
2月25日　活動証明書（3通）発行

3月

3月7日　鹿児島県リハビリテーション施設協議会助成金交付申請書送付
3月8日　鹿児島県看護協会より第50回日本看護学会―慢性期看護―学術集会のポスター・チラシ送付あり※後援学会

3月13日現在　総会員数500名（正会員498名，賛助会員2名）

一般社団法人　鹿児島言語聴覚士協会　事務局
松尾康弘

地域局(北薩地区担当)

今年の冬は雪を見ることができず、雪だるまを作ることを楽しみにしていた子供たちにとっては残念な、寒がりの私にとってはありがたい冬でした。そして、見渡す春の訪れを感じる季節となりました。各施設に於かれましても新入職員を迎える準備が始まっているのではないでしょうか。私もこの季節になりますと初めてＳＴとして現場に立った日を思い出し、身が引き締まる思いです。

さて、地域局は、鹿児島地区、姶良・霧島地区、北薩地区、南薩地区、大隅地区の5つの地区に理事を設けております。地域局の主な仕事は、会員の皆様への連絡や、生涯学習プログラム症例検討会、地区ごとの勉強会計画等の計画・運営です。

北薩地区では、前年度の活動で講師を招き「補聴器について」の勉強会を行いました。普段見慣れている補聴器ですが、取り扱いについて改めて学ぶことが多い実のある勉強会となりました。正しい知識を身につけ、細やかな対応をすることで提供できるサービスの質の向上に努めることが大事だということを振り返る機会にもなりました。また、前年度は症例検討会の際にグループワークを取り入れ、参加された方全員がインプット・アウトプットできるようなグループワークにしました。知識を共有し、横の繋がりをもって地域全体で言語聴覚士としての質の向上に努めてまいりたいと思います。

今後も、県士会員皆様のご意見やご要望を県士会活動に反映できる様に努めて参りたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

（地域局理事一同）

医療法人　誠心会　まえはらリハビリクリニック
TEL:0992-72-0088　FAX:0992-72-0089

社会局(広報担当)

平成30年度もイオン鹿児島にて、「言語聴覚の日イベント」を9月に開催させて頂きました。　ご協力いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。今後も社会局広報では様々な企画を提案できるよう努めてまいります。今後も会員の皆様のご協力がますます必要となると考えておりますので、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

鹿児島医療技術専門学校　言語聴覚療法学科　小牧　祥太郎

社会局(公共事業・保険担当)

平成30年度も、例年通り公共事業として鹿児島県介護実習・普及センターと連携し、県内各地での介護講習会やふれあい・いきいきサロンへの講師派遣などを計14件行いました。診療報酬に関する問い合わせは3件でした。

平成31年度は、要介護・要支援被保険者に対する維持期・生活期の疾患別リハビリテーション料の算定条件の変更もあり、不明な点も出てくることが考えられます。診療報酬・介護報酬に関しましては、複雑な内容の問い合わせの場合、安易に答えられないため日本言語聴覚士協会に問い合わせてもらうことになりますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずは気軽に県士会に問い合わせていただきたいと考えております。

日本言語聴覚士協会お問合せフォーム：http://www.jaslht.or.jp/form.html

垂水市立医療センター垂水中央病院　リハビリテーション室　竹中恵太
Tel 0994-32-5211　Fax 0994-32-5722

学術局(成人)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加いただき、誠にありがとうございます。会員数も増え、経験年数の違い、扱っている分野や領域の違いもあり、会員の皆様全てが満足できる研修の企画・運営は、なかなか難しいかと思います。しかし少しでも県士会員の皆様の臨床や研究の一助となれるよう努めていきたいと考えております。

今年度も研修の企画・運営に携わる予定です。皆様のご参加とご協力をよろしくお願い致します。

サザン・リージョン病院　リハビリテーション部　坂口彩
TEL：0993-72-1351　FAX：0993-72-2128

学術局(小児)

＜研修案内＞

２０１９年５月１９日学術講習会

テーマ『子どもの発達と言語聴覚士の役割
～幼児期から学童期の多職種連携～』

子どもの発達支援を考えるSTの会
代表　中川　信子　先生

来る２０１９年５月１９日（日）に、子どもの発達支援を考えるSTの会代表の中川信子先生にお越しいただき、『子どもの発達と言語聴覚士の役割～幼児期から学童期の多職種連携～』というテーマでご講演いただけることになりました。子どもの発達に合わせた関りや言語聴覚士としてどう家族を支えていくかについても貴重なお話しになります。また、就学後の学校を中心とした生活の中でどのようにして多職種との連携を図っていくかについても多くのヒントが得られるのではないでしょうか。お申し込み等については近々案内させていただきます。皆様是非ご参加ください。

２０１９年８月４日（日）にJDDネットワークセミナーinかごしま２０１９を霧島市民会館にて開催いたします。基調講演には北海道こころとそだちのクリニックむすびめ　院長の田中康雄先生となっています。霧島市の事業についても報告をお願いしており、臨床につながる大変良い機会になりますので是非ご参加ください。

やまびこ医療福祉センター　リハビリテーション部　西野　将太
Tel 099-238-2755　Fax 099-238-5134

学術局(新人教育)

早いもので平成30年度も間もなく終了しようとしています。皆様、年度末のお忙しい時期をお過ごしのことと存じます。季節の変わり目で体調も崩しやすい時期ですので、どうぞご自愛ください。

さて、今年度も新人教育研修として上期下期の2回実施しました。
下期の新人教育研修は平成31年2月24日（日）に、鹿児島第一医療リハビリ専門学校において「聴覚障害者の理解と対応」というテーマで、社会福祉法人向陽会やまびこ医療福祉センター言語聴覚士の濱弓場かおり氏に、ご講話いただきました。

私たち言語聴覚士にとって、身近な障害であるようで、実際の臨床では失語症・高次脳機能障害・Dysarthria・嚥下障害等と比べて、対応が不十分に感じることがあります（申し訳ありません。若干主観もあると思います。もちろん、十分な対応をされている方々も多数いらっしゃると思います）
小児の発達や、高齢者の認知機能低下予防の観点からも「聴覚障害」は私たち言語聴覚士にとって、専門性を発揮すべき領域だと思います。そういった視点からも大変意義深い講義でした。

学術局では専門部会も発足し、今回の研修は聴覚部会の中で講師の選定等を検討していただきました。
今後も会員の皆様からのご意見を参考にさせていただきながら、部会と連携し充実した研修を企画してまいりますので、多くの会員の方のご参加お待ちいたしております！！

米盛病院　石原　禎人
Tel 0992-30-0100　Fax 0992-30-0101

学術局(生涯学習)

平成30年11月11日（日）、早稲田大学教育･総合科学学術院教育心理学教室 坂爪 一幸 先生をお招きし、「高次脳機能障害、発達障害、認知症にみる障害の神経心理的な理解と支援」をテーマにご講演して頂きました。

臨床経験１０年目以上の方も多く参加され、この研修会への関心の高さも感じられました。講義では、臨床心理学的所見から得られた情報からアプローチの方法、機能・能力面の「強み」と「弱み」を知るなど一連の評価から訓練までの流れについて、言語聴覚士として必要な評価・訓練・助言方法について分かりやすく説明がされました。さらに坂爪先生が経験された症例の説明や東京都の取り組みについてなど、教育と臨床現場との情報共有についてなど、教育と臨床現場との情報共有の重要性を伝えて頂き、参加者の皆さんはメモを取りながら、時には頷きながら熱心に聞き入っていました。研修会後のアンケートでも、「成人も小児に対しても神経心理学評価をしっかりして訓練に活かしていく必要があるとあらためて感じた」、「説明が分かりやすく良かった。成人にも活かせる内容だった」など好評な意見ばかりでした。

今年度は学術局として奄美大島で日本言語聴覚士協会・地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修と、基礎講座を開催しました。多くの出会いと楽しい時間を過ごす事ができました。次年度も、皆さんにとって有意義な研修が受講できるように、今HOTな講師をお招きし、基礎講座（2回/年）、専門講座（1回/年）を開催したいと思います。

公益社団法人鹿児島共済会　南風病院　医療技術部　リハビリテーション科
樋渡　健太朗 TEL：099-226-9111　FAX：099-805-2509
MAIL:momotarothesamurai@gmail.com

財務局

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご協力いただきましてありがとうございます。
来年度は6月に会費の引き落としを予定しております。
まだ口座登録がお済みでない方は早めに口座振替依頼書をお送り下さい。

会費が2年納入されていないと退会扱いとなってしまいますので、ご注意下さい。
口座振替依頼書をお持ちでない方はご連絡ください。送付いたします。他にもご不明な点がありましたら、ご連絡いただけますと幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

【口座番号】
鹿児島銀行　たてばば支店
普通　３００２５７５
シャ）カゴシマケンゲンゴチョウカクシカイ
（一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会）

いづろ今村病院　リハビリ室　言語聴覚士　下舞　美和
〒892－0482　鹿児島市堀江町17番1号
TEL　(099)226-2600　　FAX　(099)225-5181
財務局メールアドレス：kago_st@yahoo.co.jp

編集男紙

2018年度。私としては充実しておりましたが、公私共々何かと慌ただしい年となりました。
平成最後の年。皆様はどの様にお過ごしでしたでしょうか。来年度からは新元号となり、皆様も新たな試みにトライする機会が多いとは存じます。諸先生方の文中にもございますが、近年特に地域包括ケアシステムの文言を耳にするようになりました。私も微力ながら協力できたらと考えている所です。
末筆ながら、来年度からの皆様のご活躍をお祈り申し上げます。（吉岡）